

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成 27 年 5 月 25 日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

北京生活はつらいよ

中国の政治の中心地である、大都会の北京で生活することは、中国人にとってもなかなか厳しいようです。

給与の高さに驚愕

今春当社内で異動があり、筆者は湖北省武漢から北京へ転勤したのですが、着任間もなくして社内スタッフの補充採用を行うことになりました。そのため、北京にて日本語人材の紹介可能な人材紹介会社各社を訪ね、当社の希望条件を伝え、紹介を依頼することになりました。

その後すぐに、複数の人材紹介を受けましたが、全ての応募者が希望する給与額が筆者の想定していた金額よりはるかに高額でビックリしてしまいました。湖北武漢であれば月給 4,500 元(約 86,000 円)～5,000 元(約 96,000 円)程度の能力・資格の人材が、北京では月給 8,000 元(約 135,000 円)～9,000 元(約 173,000 円)を希望しています。人材紹介会社にも尋ねましたが、北京では通常の相場だということだそうです。

もちろん消費者物価も高い

今更このコラムで取り上げる内容ではないかもしれませんが、中国の内陸地方都市での生活にすっかり馴染んでしまった筆者にとっては、北京での人件費以外の物価も中国内の他都市と比べると割高です。

北京では、日系コンビニが存在することは非常に便利（湖北省にはまだ存在しない）ですが、セブンイレブンのお弁当が 20 元(約 390 円)以上するのには少々驚かされました。

また、筆者が湖北武漢で借りていたマンション（家賃月額 3,500 元(約 67,000 円)）と同スペック（間取りや管理体制、会社までの通勤時間など）の部屋を借りる場合、その家賃は 7,500 元(約 145,000 円)以上となります。

もはや通勤時間も東京と大差ない

もちろん住宅購入相場も相当高く、住宅バブル崩壊を懸念し住宅相場が高値安定化している現在では、北京中心部から比較的近い場所にマンションを購入することは相当困難（年収の数十倍となり、通常理論的には難しい）なため、賃貸居住者も含め、中心部への片道通勤時間が 1 時間～1 時間半、中には 2 時間かけて出勤するという人

が多数存在します。当社への求人応募者の中にも郊外居住者がいました。

更に昨年、これまで乗車距離に関係なく一律であった北京の地下鉄料金が、距離に比例した運賃体系に変更されたため、遠距離通勤者にとっては毎日の通勤交通費の支出負担が増加することになりました。